

## 少年関係更生保護施設基本問題研究会

### 1 日 時

令和6年7月4日（木）14時～同月5日（金）11時50分

### 2 場 所

「第1日目」・大阪保護観察所堺支部

「第2日目」・更生保護法人泉州寮

### 3 出席者

少年関係更生保護施設の施設長又は補導職員（別添名簿のとおり）10名

全更連；今福理事長、稲葉事務局長、北川事務局次長

保護局；青木法務専門官

大阪保護観察所堺支部：梅村支部長、中嶋統括観察官

※講師；NPO法人チェンジングライフ 野田理事長（1日目のみ）

### 4 目 的

本研究会は、少年を取り巻く社会環境の変化、取り分け成年年齢引き下げに伴う保護観察処遇の在り方が課題となるほか、厳しい経営環境等から各少年施設が抱える諸問題の対応策や少年の特質を踏まえた効果的な少年処遇の在り方について、関係施設の補導職員が中心となって研究することにより、もって少年関係更生保護施設における運営及び処遇の充実・強化を図ることを目的としている。

### 5 概 要

#### 【第1日目】

#### ◎ 大阪保護観察所堺支部:意見交換等

○今福理事長及び梅村堺支部長のあいさつの後、全更連稲葉事務局長の進行により、更生保護振興課青木専門官から「少年関係更生保護施設の現状と課題」について、スライド資料で①少年を取り巻く状況、②少年の保護観察対象者に対する処遇、③更生保護施設における保護状況（宿泊供与、事件種別、少年の受入れ＝委託人員）、④福祉職員の配置までの経緯、⑤高齢者・障害を有する者・少年の特性に配慮した処遇の充実、⑥法改正とこれからの更生保護事業の展開、⑦特定補導の概要等の説明があった。



今福理事長あいさつ



梅村支部長あいさつ

次いで、事前に各施設から提出された報告事例の発表があり、フリートーク形式による質疑・意見交換が行われた。

・敬和園の事例～ADHD 診断のある少年、就労継続できず自立の方向性が定まらないケース。

⇨協力雇用主の下で根気強く就労指導を続ける。

・少年の家の事例～知的障害があり療育手帳を所持する少年のケース⇨母子関係に問題があり家族間の調整等が難しい、本人の障害特性に応じた関わりが必要。

・立正園の事例～実母（アルコール依存）に対する殺人未遂事件、アスペルガー・PTSD 障害を抱える家庭内暴力ケース⇨精神障害者手帳の申請、就労継続支援 B 型事業所を利用した就労訓練、退院後のグループホームへの移行調整を進める。

・泉州寮の事例～知的障害があるが、自立支援医療申請や療育手帳の申請時に「住居地特例」制度が障壁となり、スムーズな利用ができないケース⇨少年院在院中に申請を行う方法がある。地域定着支援センターと連携等で障壁打開の糸口が見つかる可能性がある。

・田川ふれ愛義塾の事例～保護者不在の医療少年院仮退院ケース⇨福祉サービス（療育手帳等）の申請が自治体間の管轄の問題でスムーズにいかかない。（上記泉州寮の事例と同様の問題）

・紫翠苑の事例～無断退苑後、再犯し、成人後も不安定な生活を送る中で相談事を連絡してくるケース⇨女子対象者の特性（重複障害、愛着障害等）、社会生活の安定化に向けたフォローアップの必要。訪問支援等息の長い支援が必要

### ＜福祉サービス＞

\*過去に知的障害のある双子の兄弟のうち兄を受け入れた。弟は地域定着センターを通じて障害者施設に入った。兄は、一般就労を経て自立し実母と一緒に生活するようになったが、弟は、就労支援事業所での就労だったことから、兄に比して給料が低額であることに不満があり、施設退所を望んだ。障害を抱える者等を全て福祉支援につなぐべきかどうか悩ましい事案。（立正園）

\*現在 16 名の入寮者のうち、3 名のみ健常者で他は全員療育手帳等を所持しているが、できるだけ就労事業所を利用しながら福祉サービスに甘えないよう注意している。（田川ふれ愛義塾）

### ＜住居地特例＞

\*住居特例の問題提起は、以前から指摘したとおりで、泉州寮の事例等も同様に手帳申請時の障害と思う。制度や法律の問題なので、厚労省側に強く要望してもらいたい。（敬和園）



青木法務専門官

⇒今回の協議内容等を踏まえ、制度の見直し等を適宜厚労省側に申し入れしたい。（保護局・青木専門官）

### ＜療育手帳＞

\*社会福祉士など専門官が配置されている刑務所、少年院では手帳取得の取組を進めている。他に特別調整でも、定着センターとの連携等で手帳申請が進められるらしい。（立正園）

### ＜自立準備ホームとのすみ分け＞

\*併設する自立準備ホームは、専ら一人暮らし前のステップとして活用しており、自立を意識させるように指導している。入所後のボランティア活動では、地域の人たちの結びつきを感じさせるような工夫も考えている。（田川ふれ愛義塾）



堺支部会場風景

### ※ 講演：「少年時代を振り返って～出会いと支え～」



チェンジングライフ野田理事長

NPOチェンジングライフ野田詠氏理事長を講師に招いて、同氏の自己紹介～生い立ち⇒①親尊心の崩壊、②偏愛、③家族の病気等心の傷つきから非行化、少年院送致を経て、在院中に差し入れしてもらった書物を通じて聖書の言葉に感銘を受ける。出院後は、「自分が決めたことは実行する」「不良以外の交友関係を広げる」「ありがとう感謝の心を持つ人になる」「人の責任にするのをやめる」を行動するようになり、キリスト教を信仰し教会牧師の道に進む。その後、非行少年の立ち直りや児相・児童養護施設を措置解除されて居場所等がない少年等の支援活動に従事するようになり、現在、NPOチェンジングライフを設立して自立準備ホーム・自立支援ホーム・自立援助ホームを運営し、居場所等がない少年達の支援に以下のように取り組んでいる。

### 《現在の保護状況》

\*自立準備・自立支援ホームは、ワンルールの部屋を8室確保。入所する少年は、不良タイプ（バイク・バイオレンス・ドラック）、内向的非行タイプ（万引き、家庭内暴力）、性非行タイプに分けて受け入れている。

自立援助ホームは、寮生活で現在8人を受け入れている。

### 《ホームの課題》

\*5年以上就労継続・職場に定着できない。おそらく特定の愛着する対象がないことが原因と思われる。

《力を入れている支援》

\*自分がしてもらいたいことを相手にしてやりなさいと伝えている。

\*携帯電話は、自分名義で契約した9台を貸与の形で渡している。少年等は不遇感が根強く、不満を感じやすいので、携帯を持たせてやることで不満等が和らげられて信頼関係にも繋がっている。経費は、格安セットで9台合計月額2万弱の料金。

⇒各事例を通じて少年更生保護施設ならではの処遇の難しさや日頃の苦労、工夫している点など実感することができた。また、住居地特例の件など厚労省側にも施設の実情を伝えて対処できるところから取り組んできたい。(保護局)

⇒少年更生保護施設での処遇の実情や自立支援ホームと自立援助ホームの相違点など勉強になった。少年の専門処遇の独自性、その意義は何か改めて捉え直す時期に来ていると思うが、今回の研究会の事例や質疑を通じた話もそこに繋がっていると思われる。更生保護施設と準備ホームの受入機能、処遇に関しても、互いに補完しあうような役割の変化が今求められている。処遇機能の充実に併せて地域との連携等も考えていく必要がある。(全更連)

## 【第2日目】

◎更生保護施設「泉州寮」：施設内見学・懇談

○宿泊先から泉州寮到着後、付帯施設で自動車整備工場を見学。計盛施設長から同工場を収益事業として運営しているが、整備作業を在寮生に指導できるベテラン整備士が退職し、現在在寮生の実習は行っていないと説明があった。



泉州寮全景



自動車整備工場

○会議室に移動後、施設長から在寮生（再入所した特定少年）と退寮生（自立就業した卒寮生）が紹介され、両名から寮生活等の感想～“自分が一番不幸と思うと何事もうまく行かない。施設長や職員にいつも声かけをしてもらえて、こ

ここに居られることを感謝している”が発表され、その後、施設内の居室、事務室、食堂、面接室、浴室、談話室、個室等見学を行った。



寮生①の発表



寮生②の発表

見学後、施設長が施設資料（実践報告、パンフレット・機関紙）を使用しながら、施設概況や少年の受入状況、清掃活動（特定補導）・クリスマス会・ハロウィン等地域活動や刑務所作業製品展示即売会を含む各種行事の開催など説明。寮生の指導に際して、従来の規則等で縛った処遇を見直し、寮生の自主性を尊重した見守り重視の指導に改め、積極的な声かけを行って家庭的な雰囲気処遇に切り替えた。ピアスや茶髪は禁止を止めて認めることにした。スマホ所持も許している。ただし、門限違反は、厳しく指導している。職員間の引継ぎ、観察官との綿密な連携により寮内全体落ち着いた雰囲気で生活が維持できている。生活環境調整に関しては、施設面接実施した事案は、全て受入可としている旨報告があった。今後の課題として、AEDの設置（⇒経費の負担があるので、観察所に要望中。）やオール電化への対応を検討中。説明後、質疑応答（感想等を含む）を行い、本研究会を終了した。



泉州寮・計盛施設長



泉州寮・玄関前

※今回の研究会は、事前提出された報告事例を中心に少年関係更生保護施設の現状や問題点等活発な意見交換が行われたほか、自立準備・自立支援ホームを運営するNPOチェーン法人理事長を招いて自立支援の実践等今後の少年処遇の在り方について研究する機会となった。研究会の閉会に際して、全更連内で事業部会を設置して各部の自主的な取組がスタートしたこと、少年施設処遇の充実を図るため内田基金が創設され

たこと等を踏まえて、次年度以降は本研究会参加施設等が主体的に研究協議の場を運営して全更連側が助成することとしたい旨説明して閉会となった。

### 少年関係更生保護施設基本問題研究会研究員名簿

番号	管轄委員会	所管庁	更生保護施設名（法人名）	氏 名
1	関 東	東 京	敬和園	山 崎 孝 之
2		東 京	敬和園	久 芝 友美子
3		東 京	紫翠苑	真 田 安 浩
4		東 京	紫翠苑	井 上 啓 子
5		静 岡	少年の家	遠 藤 司
6		静 岡	少年の家	中 本 忠 孝
7	中 部	名古屋	立正園	百 瀬 覚 由
8		名古屋	立正園	百 瀬 祥 子
9	近 畿	大 阪	泉州寮	計 盛 成 教
10		大 阪	泉州寮	磯 谷 恵 美
11	九 州	福 岡	田川ふれ愛義塾	工 藤 良

